

令和 2 年度実証実験の報告について

事業概要

1. 目的

離島 ICT 教育実証事業は、令和 2 年度初めて国立大学法人琉球大学も補助事業者となり ICT 機器を活用した遠隔授業による教育プログラムの企画及びその教育効果の検証と、それによる離島への高校教育の可能性を検証するものである。

平成 29 年度から 2 年間、与那国町と琉球大学において実証実験を行い、令和元年度は与那国町立久部良中学校と伊江村立伊江中学校を繋ぎ実証実験を実施した。令和 2 年度は琉球大学附属中学校と伊江村立伊江中学校の二つの中学校を、ICT 機器を活用して結び遠隔授業を実施することにより、現状の課題や今後の方向性を探った。

遠隔授業等の実地検証は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため沖縄県独自の緊急事態宣言が発出中であったことから取りやめ、Zoom を用いての参観・検証を行った。また、遠隔授業等の後に各取組の評価・検証を目的とした生徒への質問紙調査を実施するとともに、遠隔授業を実施した教諭の振り返りや意見等も参照しながら検証委員会で検証する方法をとった。

2. 企画検証委員会の設置

令和 2 年度沖縄人材育成事業費補助金 (ICT を活用した離島における遠隔教育の実証事業) において遠隔授業による教育プログラムの企画及びその教育効果の検証並びに離島への高等学校教育の可能性の検証を行うことを目的として、ICT 機器を活用した遠隔授業による教育効果等企画検証委員会（これ以降「企画検証委員会」と称す）を琉球大学地域連携推進機構内に設置した。

企画検証委員会は以下に示すように、琉球大学の教員、遠隔授業を実施した伊江村教育委員会、実施校の校長、有識者などで構成されるが、実際に授業を行う教員などもオブザーバーに加え、これまでの 3 年間の蓄積と課題に照らし、実験後の検証のみならず授業の企画段階から委員会で検討を重ね検証することで、より実験意図を焦点化することとした。

(1) 企画検証委員会の所掌

企画検証委員会は、以下の①～③についての企画及び検証を行い、それを踏まえ、必要に応じて提言を行うこととした。

- ① ICT 機器を活用した遠隔授業カリキュラムの企画及び教育効果に関すること
- ② 前述した①の成果を踏まえた離島への高校教育の可能性に関すること
- ③ 前述の①、②以外で必要なこと

(2) 構成

企画検証委員会の構成員は、琉球大学の大学教員 8 名、伊江村教育委員会職員 1 名、教育学部附属中学校の校長、伊江村立伊江中学校の校長、外部有識者 1 名として、計 12 名で構成した。

(3) 企画検証委員会の開催

第 1 回 日時：令和 2 年 12 月 21 日 (月) 14 : 00 ~ 15 : 30

場所：琉球大学地域国際学習センター 301 講義室及び WEB 会議

議題：① 検証委員会委員長の選出

- ②事業の概要説明
- ③実証実験の企画
- ④令和元年度報告書について
- ⑤実証事業のスケジュールについて
- ⑥その他

第2回 日時：令和3年1月28日(木)16:30～17:30

場所：琉球大学附属中学校多目的室及びWEB会議

議題：①実証事業の計画について

②実証事業の検証計画について

③検証報告書等について

④その他

第3回 日時：令和3年3月末日（水）（メール会議を予定）

議題：①検証報告書について

②その他

3. 実地検証

実証実験の実地検証のため、検証委員会の委員がWEBにて令和2年2月15日(月)、16日(火)に両校を繋ぎ、ICTを活用した遠隔授業等の実地検証を行った。実証実験のスケジュール及び実施状況は下表の通りである。

離島 ICT 教育実証事業実施状況					
月	日	曜	時間	内容	備考
1	19	火	2校時 09:40～10:30	伊江中音楽授業をZoomで参観	琉大附属中：音楽教諭
2	15	月	3校時 10:40～11:30	■音楽授業実践会 伊江中2年（30名）	附属中の教員がICTを活用し伊江中の生徒を遠隔で指導
	16	火	2校時 09:40～10:30	■英語科交流授業 伊江中2年（30名） 附属中2年（37名） 米国カリフォルニア中学生2名	・地域・学校の紹介 ・質問への回答 ・違う生活環境への感想 *琉大・伊江・米国の3地点交流
			放課後 17:00～17:30	■ものづくり交流会 伊江中ロボコン同好会8名 附属中10名	・附属中 エネキ'ーロボットの発表 ・伊江中ロボコン同好会 県大会出場ロボットの紹介